

下記内容は最終稿ではありません。ヨギさんのチェックを経て、一部変更の可能性あります。

小林あすかさん(司会)

政治塾「あたラボ」は自分たちにできることを考えて、やっていこうという勉強会です。

ヨギさんは私と同期(1期目)の江戸川区議でした。私たちが感じている多文化共生と外国人から見た多文化共生には微妙な違いがあることをヨギさんから教えられました。

ヨギさん

先日の都議選では負けてしまいました。ごめんなさい。

私が1977年生まれで、日本に住み始めて、ちょうど20年経ちました。その前、1997年と1999年に日本で大学の学生生活を送ったこともあります。他にフランス、中国、アメリカの大学にも留学しました。2001年から日本のIT企業で働き始め、2010年にみずほ銀行、その後、出向先の200人くらいの会社で社長を努め、2019年には出向で楽天銀行の副本部長となりました。同年4月には江戸川区議となりましたが、当時は兼業不可ということで、楽天銀行を退職しました。

インドの田舎で生まれ、水準の高い教育を受けることができました。大学では物理学と数学を専攻。その後、経済学部へ転入。その後、国際経営プログラム、。並行してIT技術の勉強をしました。週に3日、日本語とドイツ語の2ヶ国語を学びました。とても密度の濃い大学生活でした。大学3年から並行して企業に就職しました。

議員の仕事はいろんな事にかかわりを持てるので楽しかったです。議員になった動機は2つ。一つは息子が区立の中学校で先生からひどいいじめを受け、教育委員会とも戦いました。結果的には先生に謝ってもらいましたが、その過程で日本の教育はインドと比べて問題が多いと思いました。

もう一つは江戸川区の柊区議が2016年当時、江戸川区にリトルインディアの設立を推進していて、理事にならないかと誘われたものの、自分としては路線変更が必要と判断し、お誘いをお断りし、設立反対運動を展開し、2017年に計画を止めることができたという経緯があります。シンガポール、ロンドン、ニューヨークにあるリトルインディアは、いずれも歴史的に労働者中心であり、日本の西葛西がIT人材であることが大きく異なっていることから、同じように考えるのではなく、街のニーズを把握するところから始めなければならないと考えたからです。

日本の行政は外国人社会とのつきあいがないので、外国人の多様なニーズをうまく把握できておらず、外国人の考え方も理解していません。自ら行政に入っていく必要性を感じました。

2019年の区議選立候補当時は無所属でと考えていましたが、街頭でチラシを配っていたところ、立憲民主党の議員から誘われ、告示日の1週間前に立憲民主党からの立候補となりました。

日本の行政(実は企業もユーザーニーズをきちんと把握していないことが多い)は社会的な立場のある人からしかニーズ等をヒアリングしていないという大きな欠点があります。

息子の公立小学校のPTA活動(副会長をつとめました)でPTAの仲間(主に母親たち)から学んだこともいろいろありますが、選挙公約を考えるにあたっては300人位に街頭で街の中で変わってほしいと思う要望を3つ提示してもらおうという形でアンケートを実施しました。エクセルで44項目にまとめ、スマートシティの5つのフレームワークにまとめました。これをもとに、新たに議会活動を通じて知ったことも加え、改善に向けてチェックしていきました。

質問:外国人がPTAに参加している話を聞いたことがないのですが

ヨギさん:

日本語ができる外国人も多いのですが、PTA役員にあえて勧誘しないことには、参加は難しいかもしれません。PTAからのお知らせにも、主な外国語の翻訳を加えるといった工夫もしていった方がよいでしょう。

今、息子が留学しているイギリスのPTAでは親の質問(授業や子供の成長に関わること)に学校はきちんと答えてくれています。かつて先生のいじめをPTAに私が相談した際には、PTAは全く対応してくれませんでした。外国人はこういった日本のPTAのやり方には賛同しないと思います。日本のPTAは変わっていかねばならないのです。

質問:外国にもPTAはあるのですか

ヨギさん:

私が知るすべての国にPTAはあります。しかし、外国では、日本のように学校の行事をPTAが手伝うということはありません。PTAの役割は学校のチェック機能を担うことにあります。PTA費を払うというの聞いたことがありません。私が江戸川区の教育委員長に相談した際、教育委員会はPTAを管理する立場には無いと言われました。今のままでは、PTAの文化を変えることはできないと思います。

外国人は国の政策もあり、これからも増えていくと思いますが、外国人はルールを守らないという声をよく聞きます。逆に外国人からは、長く日本に住んでいるのに、自分たちのことを日本人はわかってくれないという声が多いです。企業にとって外国人は必要ですが、外国人が意見を言うと、そんな外国人は社のカルチャーに合わないといいます。意見のある人が嫌なのだと思います。外国人が楽しくやるコツは意見を言わないことだという声を聞きました。インドのIT企業はアメリカにおけるのとは違って、日本ではなかなか成功しません。インド人と日本人のやり方のギャップを少なくしていくところに正解があると思います。

そもそも外国人は日本にとって必要なのでしょうか。よく考えてみるべきです。

国の意見は一つは労働力不足の解消、もう一つは将来の国の年金資産が不足するので、外国人に働いて年金を納めてもらうようにしたいというもの。

国民には両方の意見があり、必要ではないと思う理由は、仕事が奪われる、社会の秩序が乱れるというもの。外国人が身近にいる人が多い。

必要と言う人は日本の文化が好きでいてくれるのだから、日本の文化を外国に広げてくれるのだからいいんじゃないというもので、こちらは外国人が身近にいないので、外国人の悪いところを経験していない人が多い。あなたの家に外国人と一緒に住むことになったらどう思うのかと聞くと、嫌だという人が多い。身近に考えていないことが理由です。

ニュースでも、悪い外国人の話ばかり聞きます。いいと思えるような情報に接することが少ないのです。

外国人を雇う前に、日本人で希望に合った仕事が無いと困っている日本人を教育したうえで、先に雇うべきです。技能実習生で日本に来る外国人は年金に入らない、健康保険料の支払いのほとんど無い、給料の安い人が多いです。将来の社会保障を考えるなら、日本で働く外国人の人材を選んでいただきたい。現状では、日本の将来の基盤になるような外国人人材は全体の2割にすぎないのではないのでしょうか。茨城県の農家で働く人の3人に1人は外国人と言われていますが、数年で自国に帰る人材です。インドでは大学で農業を学ぶ人材はたくさんいるので、そういった人材を日本に連れてきて活用してはどうでしょうか。ドイツではコックになりたい外国人は国家試験に通らなければ、コックになれません。日本では能力のない人たちが書類を偽造して、日本で働いているのが実情です。こういったことを知らない議員さんたちが多いです。

全国レベルの全国人材需要供給管理システムを日本に作ってほしい。ハローワークと連携し、いっただれだけの数のどんな人材がほしいかを企業に入力してもらうようにします。日本人でできるだけ需要をまかない(職種変更のための教育も必要です)、それでも不足する人材を外国から供

給してもらいべきです。日本にいる外国人の、技能をもった配偶者たちにも働いてもらいたい。また技能実習生にはきちんと日本語を学んでから、日本に来てもらうようにすべきです。

質問:ゴミの分別、粗大ゴミの件で外国人とのトラブルが多いといった話をよく聞きます。いい解決策があれば、議会でも提案したいです。

ヨギさん:

15年前はそもそも外国語の情報がありませんでした。今は英語の情報がありますが、周知されていません。まず転入時に外国語できちんと説明を行うべきです。地域によってルールが違います。住む住宅によっても違います。URの集合住宅では毎日ゴミを出していいですが、民間のマンションではゴミを出す日が決まっています。ゴミの分別も外国との違いが大きいのです。1時間くらいいいから、運転免許を取る際と同じような動画を外国語で提供すべきではないでしょうか。わかりやすい生活マニュアルも提供すべきである。粗大ゴミについては、外国人はルールがわからないのとお金を払いたくないの両面があります。私が経営している飲食店でも店を閉めたとき、ドアの前に粗大ゴミをおいていく人がいます。防犯カメラの設置も検討していますが、やはり重要なのは徹底した周知だと思います。

町会に参加する外国人が少ないことも一つの要因ではないでしょうか。一人でもいいから外国人に町会の役員になってもらいたいということが解決につながると思います。

なお、粗大ゴミの収集で、集合住宅の場合でも、シールをコンビニで買って貼るだけでなく、予約電話をかけなければならない現状のシステムは良くないと思います。

外国人との考え方の違いでいうと、外国人は時間に少々遅れることを気にしない傾向があります。日本人は人の時間を無駄にしないようにすると考えますが、外国人は長い人生でその程度は大したことはないという感覚です。

外国人に比べて、日本人は服装のセンスも派手なものを着ない傾向があると思います。

災害時や医療現場で外国語の対応が無いのも問題です。江戸川区役所では英語を話せる人がいますが、とって下手です。医者は英語を話せるはずなのに、話そうとしません。

ビザを発給する場所が遠いところにあるのは問題です。外国人が多いところで作って欲しいと法務省にも訴えています。

会社の雇用においても、5年限度の有期契約が多く、それでは優秀な外国人がキャリアプランを立てにくい。また年金を積み立てても、10年未満の場合、母国に帰る際に35%しか返してもらえないのは国としてひどい話だと思います。

学校教育で差別(いじめ)があるのは全くおかしいです。1代目は自分の意思でくるからまだいいのですが、2代目は母国とも離れ、日本社会にもとけこみにくいというのはどうかと思います。

確認したところ何の証拠もないのに、URのエレベーター内でインド人は小便をしないでくださいとの張り紙がされているのを見たときには本当に頭が来ました。

日本人はオープンに外国人と会話ができません。島国根性なのか、言葉の問題なのか、ゴミの出し方が違っていたときに、違っているということをちゃんと説明してくれる日本人は100人に1人しかいないのではないのでしょうか。迷惑がかかるということをちゃんと行ってほしいのです。

江戸川区のゴミ処理場で電池が爆発し、操業停止になったことがあります。私の前で外国人は気をつけてほしい、周知が必要だと言われたことがあります。外国人にはそういった事実をきちんと伝えて、納得すればちゃんとマナーを守ると思います。

日本人は外国人が間違っていたら、ちゃんと教えてあげないといけません。私が日本に初めて来たときに、エスカレーターの乗り方(右側か左側か)がわかりませんでした。

衣食住の衣では特に困りません。

食では、日本ではインドの米が入ってきにくいのが困っています。パキスタンの米は入っているのに。日本とインドの関係性が薄いのがその理由と思われる。自分は日本とインドが本当に仲良くなるのは難しいと思っているのですが、その話はまた別の機会にさせてください。

住では、江戸川区など地域によって外国人が多いのは、URの空室率にその要因があります。常は日本人しか保証人になれませんが、URが少しずつ外国人に保証人なしで貸すようになってきました。日本人が出ていくと、そこに外国人が入ってくるので、外国人の比率がどんどん高くなってきています。江戸川区長はインド人は所得が高く、住民税をたくさん払うので歓迎してくれていると思うのですが、URの住戸数が限られているので、これ以上は増えません。URを新設するか、外国人OKの民間賃貸マンションを増やしていくしかないでしょう。

住の次に重要なのは教育です。子どもの教育が保証されなければ、外国人で日本に残るのは労働者だけであって、知識層は残りません。江戸川区のインド人の子どもが通っているのはインターナショナルスクール(西葛西、東葛西、清新町の3箇所)です。インド人の子どもは親の所得が高いので、認可保育園には入れません。共働きの親は少ないので、保育園に入れないのは仕方ありませんが、幼稚園には入れたいと思っており、行政が対応してくれないので、インターナショナルスクールの幼稚園に通わせています。インターナショナルスクールからは、日本の大学にはほぼ入りません。私の息子も海外の大学に留学することになりました。日本の政治には新しい日本人を作る戦略がないと思います。

外国人は大人の継続教育にもすごく興味があります。江戸川区には、国際的な教育を行う、区立の国際学校を作るべきと考えます。月5万円とかの授業料でいいのです。現在のインターナショナルスクールがそうであるように、半分は日本人でいいと思います。多文化共生の中で育つこととなり、意義は大きいと思います。そういったことをしないと、外国人の子どもと日本人の子どもは一緒に遊びません。仲良い関係ができていないのです。一部のエリアのインターナショナルスクールで放課後に日本語の授業をするようになりました。保護者も一緒に参加してもいいのです。言語の壁はこういったことでなくなり、感情的な距離も近くなっていくと思います。

最近警察の職質が外国人に対してひどくなっています。外国人同士が喧嘩していると、すぐ留置所に收容してしまう。5年前にひどいインド人の事件を経験してから、警察での面会ができるよう、全日本インド人協会を立ち上げ、会長となりました。個人では面会できませんが、協会だと面会ができるからです。私は警察に対する不信感があります。

外国人が日本に来るときの課題、日本にいるときの課題、日本を離れるときの課題を整理しました(資料参照)。これらの課題を解決することで、日本を母国として思ってくれるようになるのではないのでしょうか。

多文化共生のためには自助、共助、公助を進めていかなければなりません。

自助では家族も日本語を学ぶ努力をします。例えば、町会の中で協力し合うのが共助です。看板に日本語だけでなく、外国語も記載するといったことも大切です。祭りは実際には年寄りしかやっていませんが、それを外国人が手伝う。2006年から、私の住むURの団地内(住民の1/5が外国人)で、私が外国人向けにゴミの出し方や防災などの研修会をやったりしました。このことはテレビにも何度か取り上げられました。

私が作ったインド人の協会のような組織は中国人、ベトナム人の中には存在しません。

区は外国人の意見を聴取するために、外国人の各国の代表者会を作っていくことが必要と考えています。いろんな意見を聞くことで、実践的な取り組みが可能になってきます。日本語教室をどう作っていくとか、文化交流の教室をどう作っていくといった話になると思います。そういった試みにより、外国人も自分たちの町という意識が高まってきます。

代表者が町会のようにボス化しないよう、代表者は1年2年でローテーションしていくべきです。

外国人とのコミュニケーションのコツとしては、日本人におけるのと違い、何でも話してスッキリした方がいいです。外国人はグループ意識より、個人意識が強いので、個人個人の意見を大切にされた方がいいのです。

災害時の情報は大切です。3.11の震災のときに、40%のインド人が本国に帰ってしまいました。日本からの情報が入って来ず、本国を通して放射能が危険だという情報が入ってきたからです。韓国では地震の際に、多言語の情報システムを構築済でした。学ぶべきです。私にも構想があり、別の機会があれば説明したいと思います。

外国人の要望は国によって、住んでいる地域によっても全く違います。二次元分析が必要です。多文化共生を進めるのに、当事者の意見を聞かずに行政は対応しがちですが、全く良くありません。

外国人代表者会を作ることを議員時代に江戸川区に提案しましたが、江戸川区は作ることを怖がっているのではないかと思います。怖がるのではなく、助けてもらうような存在にすればいいのです。

多文化共生のためには、お互いを理解する努力が必要だと思います。

私は、bodyとmindとsoulの3つのバランスを大切にしています。バランスを大切に、いい社会人として生きていきたいと思います。

質問: 江戸川区ではインド人は裕福なんでしょうか

ヨギさん:

そうです。西葛西では地価が高いので、低所得では住めません。今ではほとんどがURに住んでいます。企業も以前に比べると住居費負担が少なくなってきているので、有期雇用から正規雇用(無期雇用)につながってくるとよいと思います。

質問: 外国人とコミュニケーションを取ろうとしないのは日本人の方で、日本人が悪いのではないのでしょうか

ヨギさん:

外国人はコミュニケーションを望んでいますが、言語の壁と日本人の性格の壁がある。交流の場を行政や町会が作っていかないとイケないと思います。年に1回のイベントを開催するだけでは輪が広がりません。行政が文化教室を運営すると、外国人の当事者のニーズを考えずに一方的に先入感で教材をつくってしまう。それでは面白いものにはなりません。お金をかけなくても、それは可能です。

江戸川区では「人生大学」の卒業生がボランティアで日本語を教えてくれていますが、テンポがゆっくりすぎます。退屈で、やめていく外国人が多いのです。日本語だけでなく、ゴミの出し方とか実践的な教育もしていったらどうでしょうか。

私は3つのフェイスブックのグループを主宰しています。大変な努力をして作ってきました。一つは個人売買もOKのグループで25000人、文化交流で5000人、悩み相談のインド人協会運営の4500人の規模となっています。

日本は国内に宗教紛争が無いというのが平和な要因になっていると思います。リトルインドの話があった際に、ヒンズー教の教会を作ることには反対しました。ヒンズー教の中には多くの

派閥があり、うまくいかないからです。インド人だけに独自にワクチンを供給する話がありましたが、そういうことは絶対にやっては良くないと思いました。

江戸川区でコミュニティ内で日本語学校をやるとアナウンスしたら、2日で300人集まりました。コロナで止まっていますが、収束したらぜひやりたいと思っています。2時間300円。100円ショップのひらがな・カタカナの教材を使用します。日本人の子どもに英語を教えて、外国人の子どもに日本語を教えて、ある程度たったら一緒に学べるといいと思っています。日本語で考えたり、英語で考えたりする習慣を身につけて、友達になっていくのはとてもいいことだと思います。小学生低学年から多言語で地理や歴史を学ぶようになれば、日本の学校ももっと楽しくなると思います。インドの子どもは幼稚園から読み書きを学び、小学校に入るときにはだいたい3つの言葉をしゃべっています。